

みなさん、こんにちは。

朝発令された大雨警報で、自宅待機をしてもらっていました。警報が解除され、昼になりましたが、無事に終業式が行えてよかったです。

1 学期終業式を迎え、明日から夏休みに入ります。皆さんが明るく元気で楽しそうに学校生活を送ってくれたことを、とても嬉しく思っています。

1 学期は、始業式・入学式からはじまり、勉強や実習にも励んだことと思います。遠足、体育祭、防災訓練などの行事の他、県総体、四国大会、高校野球選手権香川大会など、部活動の場面においてもそれぞれの活躍があったことでしょう。文化部はこれから全国高校総合文化祭が行われます。出場する生徒や部門委員や補助員として活動する生徒の皆さん、頑張ってください。

4 月からこれまでを振り返って、皆さんは何が心に残っていますか。皆さんがやってきた経験の中で、一つでも心に残るものがあれば、それを大切にしたいと思っています。

さて、皆さんは「山月記」を知っていますか。国語の教科書でも取り扱われている中島敦（なかじま あつし）の短編小説です。笠田高校では、3年生の2学期から学習していくと聞いています。私は、この小説を高校時代に習いました。授業としては短い時間数だったと記憶していますが、その話の顛末に衝撃を受け、未だその解釈については考えることがあります。

簡単にどのような話か少し説明します。

一人の男が、自分には才能があると思いきや、他人から教わることや注意されることを嫌い、我慢や努力をすることから逃げていました。今ある地位よりもっともっと人から認められたいと職業を変えます。それでも、人を見下し、謙虚に教わることができず、結果、自分の殻に閉じこもり、とうとう人間としての心を失い、虎になってしまうというお話です。

初めてこの授業を受けた時に、「人間が虎になることはない」とばかばかしく感じ、理解できませんでした。ただ、当時教えてくださった先生が、「姿かたちが獣にならなくても、心が獣になることはある」おっしゃったことがこの作品に込められた意味を考えるきっかけになりました。

近年、SNS文化が普及し、「多くの人に認められたい」という欲求の度を過ぎることで、不適切な画像や動画の投稿につながり、問題になることも多くあります。皆さんも先生方からSNS投稿については様々な場面で注意喚起を受けていると思います。このようなニュースや話題を聞くと、私はこの「山月記」を思い出すのです。自分は正しいと思いきや

り、人から注意されることが嫌で、褒められることだけを求め、我慢や努力をしない。でも人から高く評価されたいというのは、物語の世界にだけ存在するものではなく、我々の世界の中でもある得ることで、ふと気が緩むとこのような心持になる時があるかもしれません。

我慢のない人生はありません。地道にコツコツ努力を重ねたとしても、成果が全くでないこともあります。粘り強く努力を重ねたり、謙虚に学ぼうとしたり、人に誠実に接したりする過程の中に、人として大切な学びがあるのではないのでしょうか。そう思うからこそ、私は「心が獣にならないように」と今も自分を戒めることを大切にしています。

皆さんはどう感じましたか。

長い夏休みの期間中、さまざまな経験を通して、皆さんには自分は人としてどうあるべきか、考える機会にして欲しいと思います。3年生の皆さん、「山月記」を学んだあとの感想もぜひ聞かせてください。

明日から夏休み。暑さも厳しくなってきました。事故や事件に巻き込まれないよう、自分をコントロールし、また2学期始業式で皆さんの元気な姿が見られることを願っています。